

西井川小学校
「学力向上実行プラン」

研究テーマ

- ①「基礎・基本的な知識・技能を確実に定着させるノート指導やドリル学習の充実」
- ②「自分の思いや考えを豊かに広げ、表現する学習環境・機会の充実」

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員	委員	校長	伊藤 浩二
		教頭	三好 康彦
		教務	立川 京子
		教諭	小原 敏二

校長 伊藤 浩二 印

(1)基礎的・基本的な知識・技能の習得

児童生徒の状況	具体的目標(目指す子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よさ 漢字の読み書きや計算などには、積極的に取り組み、ある程度定着している。	朝の活動の時間に、読み書き計算に主体的に取り組むことができ、基礎的・基本的な知識・技能を確実に身につけることができる。	小テストや単元テストでの正答率を90%以上にする。			
課題 学力の差が見られ、基礎となる漢字や計算の力が身についていない児童もいる。語彙も少ない。	①朝の活動の時間を確保し、漢字・計算・読書・音読のドリル学習を継続して行う。 ②ノート・日記指導を充実させる。賞賛や励ましの言葉を書き、意欲を高める工夫をする。	①定期的に漢字・計算の確認テストをする。 ②よいノートや日記を披露する機会を取り入れる。		評価	次年度における改善事項

(2)知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況	具体的目標(目指す子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よさ 学習態度が真面目な児童が多い。協力し合ったり、教え合ったりして学習することができる。	自分の思いや考えを目的や条件に応じて、話したり書いたりして伝え合うことができる。	「自分の思いや考えを話したり聞いたりすることができる」(児童へのアンケート)の割合を80%以上にする。			
課題 表現力が十分でなく、発表や説明が苦手な児童が多い。自分の考えを筋道を立て記述したり話したりすることに課題がある。	①発表の仕方や聞き方を示し、授業を中心に指導する。授業の中で、少人数の話し合い活動を意図的に取り入れる。朝の会でのスピーチ等、話す機会を多く設ける。 ②ICTやミニWBの活用等、授業の工夫・改善に取り組み、自分の考えや学習の成果を発表する機会を確保する。	①毎日、一人1回以上発表する。 ②年間2回程度、学習の成果を発表する機会を取り入れる。		評価	次年度における改善事項

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況	具体的目標(目指す子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よさ 家庭学習の提出は多くの児童ができています。与えられた課題には、真面目に取り組む。	家庭学習や苦手な課題について自分から取り組む。	「進んで家庭学習ができた」(児童へのアンケート)の割合を90%以上にする。			
課題 自分で課題を選んで学習することが難しい。分からない問題にぶつかると、すぐに人に頼ろうとするところがある。	家庭学習や読書に目標を持たせて取り組ませる。家庭との連携を密にし、家庭学習の習慣化に努力する。	90%以上の児童が自主的に家庭学習をする。		評価	次年度における改善事項

平成29年度 学力向上ロードマップ

